

2003年11月26日

## グローバル標準活用による商品マスタデータ同期化の業界共同実証実験について

消費財・流通・IT業界22社による、「製配販商品マスタ同期化プロジェクト」では、2003年12月より2004年3月まで、EAN・UCC標準を活用した商品マスタデータ同期化の業界共同実証実験を行います。これは、製配販の企業が業界横断で集い、EAN・UCC標準(注<sup>1</sup>)XMLを使った初めての实証実験プロジェクトとなります。

### 1. 製配販商品マスタ同期化プロジェクトとは

- ・ GCI研究会において2002年度にGDS(グローバル・データ同期化)の研究活動が行われました。その研究活動では、欧米の実情に加えて日本における商品マスタ・メンテナンスの向上になりうるかについての検討も行いました。この研究に参加した会員企業の一部有志企業が、製配販の間での商品マスタデータ同期化の実証実験を行う目的で自主的に集まったプロジェクトです。その後、GCI研究会ではこのプロジェクトを支援することを正式に決定しました。

### 2. 実証実験の目的

- ・ この実証実験では、メーカー側が自社商品を登録している業界商品データプール(注<sup>2</sup>)と、その商品の買い手である流通業(卸売業、小売業)が活用するエクステンジ上の商品データプールの商品データをEAN・UCC標準に基づいた最新技術の活用によって同期化させるための技術実証。
- ・ 同時に、この実験を実施することにより、今回の実験範囲において、データ同期化に伴う、業務プロセスの課題を明確化。

### 3. 実証実験の背景

- ・ 欧米では、商品登録の精度が低いことによるシステムエラーや、新製品情報が取引先に連絡されていないことによるビジネスロスが多く、その解決策として「データ同期化」への取り組みが進められています。
- ・ 日本では、新製品導入に伴う商品情報の提供と登録作業には多くの人的資源が投入されています。それによって、商品登録の高い精度が実現され、発注エラー、POSエラーなどのビジネスロスが防がれています。
- ・ IT化や、国際化など様々な市場環境変化やそのスピードを考えた場合、商品情報の交換をより迅速かつ正確に実施するために、商品マスタの同期化が近い将来必要になってくると考えられており、時代に先駆けて今回の実証実験を行うこととなりました。

注<sup>1</sup>: EAN・UCC標準とは、世界的な標準化組織である国際EAN協会によって開発された電子商取引のグローバルな標準です。

注<sup>2</sup>: 商品データプール(一般的には商品電子カタログや商品データベースとも呼ばれており、インターネットなどによって商品情報の検索や入手ができるようにしたデータベース。)

#### 4. 実証実験の概要

- ・ 今回の実験では業界VAN会社によって運営される2つのデータプール、ファイネット(酒類・加工食品)並びにプラネット(日用雑貨・化粧品)と、流通向けグローバルB2BエクステンジであるWWRE(ワールドワイド・リテール・エクステンジ)と(株)野村総合研究所が運営する流通向けB2BエクステンジであるBizMart(ビズマート)との間で同期化を行います(図表参照)。
- ・ EAN・UCCで定められたグローバル標準のXMLを商品データのデータ交換に採用します。

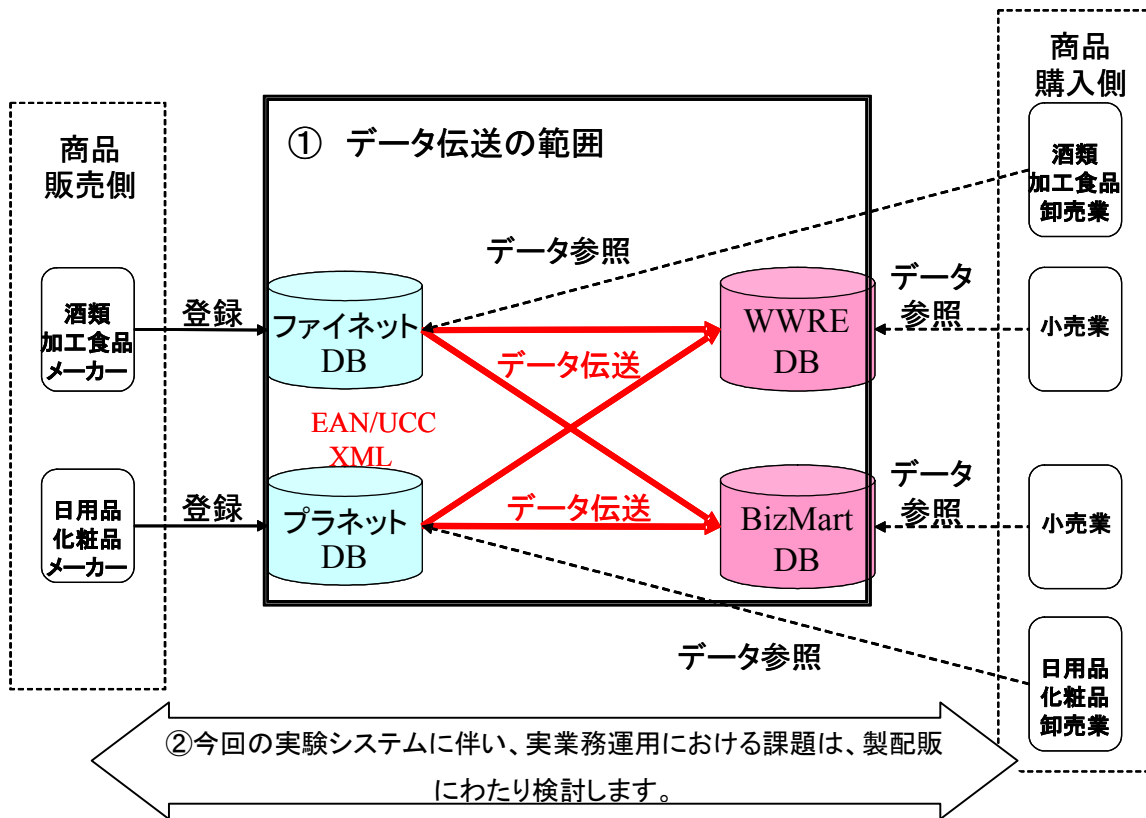
#### 5. 実証実験および実業務・運用における課題検討範囲

##### ① 実証実験の範囲

- ・ 商品マスターデータの同期化の実証実験の領域は下図の通り、データ伝送はデータプール間のみで行います。

##### ② 業務プロセスにおける課題検討の範囲

- ・ 業務プロセスに関しては、商品購入側でのデータ活用までを含めます。



今回の実証実験では、マスタ同期化のためのミドルウェアソフトとして富士通のInterstage（インターステージ）及びその関連製品、マイクロソフトのBizTalk Server（ビズトーク サーバー）及びその関連製品が、両社より実験期間中提供されます。また各データプール間のネットワーク運用サービスについてはインテック コ

コミュニケーションズから提供されます。

#### 6. 製配販商品マスタ同期化プロジェクト参加企業(2003年11月21日現在)

##### データプール事業者(4社)

日雑・化粧品業界データプール	(株)プラネット
酒類・加工食品業界データプール	(株)ファイネット
流通向けデータプール	WWREアジアパシフィック (株)野村総合研究所

##### データプール参加企業(14社)

日雑・化粧品業界(9社)	エステー化学(株)、花王(株)、小林製薬(株)、サンスター(株)、 中央物産(株)、日本リーバ(株)、P&G・ファー・イースト・イン ク、ユニ・チャーム(株)、ライオン(株)
酒類・加工食品業界(4社)	アサヒビール(株)、加藤産業(株)、国分(株)、(株)菱食
総合商社(1社)	三井物産(株)

##### IT関連企業(4社)

ネットワーク、ITベンダー	(株)インテック コミュニケーションズ、(株)日立製作所、 富士通(株)、マイクロソフト(株)
---------------	--

上記企業以外にも、各データプールのユーザー企業には、データ項目や業務プロセスの検証にご協力を  
頂いております。

#### 7. 実験期間

2003年12月より2004年3月まで

#### 8. プロジェクト幹事

- 永井 浩一(三井物産・MBK流通パートナーズ) GCI研究会GDSワーキンググループ座長
- 佐藤 昭和(花王) GCI研究会SCMワーキンググループ座長・GCI研究会幹事
- 榎村 文信(P&G) GCI研究会幹事

以上